

6回目の株主総会

ここ数年、毎年襲われる豪雨による被害。九州では亡くなられた方が今の段階で68名と報道されており、各地で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。同時に行方不明の方々が一刻も早く救出されることを願っております。コロナ禍と重なり被災現場は想像を絶する大変さだと思います。微力ながらできる限りの支援をしたかと考えています。

愛媛では5月28日からコロナ感染者ゼロが続いており、縮小期に入ったそう。東京ではアラート解除後、連日200名以上の感染者が発生している。新しい生活様式を啓発するのならば、一極集中を見直すべきではないか？

ところが、国も都も従来の経済活動を優先させ国民一人一人の命や暮らしを守ることに無関心ようだ。だからこそ私達は政治に無関心であってはいけないと思う。自分が払った税金がどのように使われているか大いに関心を持つべきだ。

JAL 愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
 連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
 松山市三番町8-10-2 Tel. 089-945-4526

6月19日第71回JAL株主総会に参加した。今年で通算6回目の参加になる。解雇されなければこのような経験もしなかつただろう。



株主総会入場券

JAL 不当解雇撤回争議団
 松山市在住 林 恵美

コロナ禍で参加人数制限をすするため事前登録が必要だった。例年の半分以下の405名の参加。会場前には大雨にも関わらず早朝宣伝に45名の支援の皆様が駆けつけて下さった。争議10年目になるにも関わらず大勢の方が来て下さり励ましてくれる。誠にありがたい。

株主総会は、ほぼ定刻の10時から始まった。冒頭、経営状況がビデオで説明されるのは通常通り。

(裏面に続く)

パイロット、客室乗務員の復帰こそが信頼と企業存続への最良の道

西条市小松町佛心寺住職 西谷 圓峰

自主的に解決を」と述べるにとどまっているが、日航にこの解雇問題を解決するよう強く促してもいいのではないか。最近の状況を聞いても、日航側は労使関係を正常にしようと考えているとは到底思われない。

まだまだ長い闘争が続くと思う。現場で空の安全を守るために頑張っている労働者のまともな要求を受け止め早くベテランのパイロットや客室乗務員を復帰させることが、日航への信頼と企業存続への最良の道である。

それを気づかせる為に頑張りましょう。私も引き続き応援していきます。

日航へ、だから2位に落ちるんだよ！！

私も 応援 します

日本航空の整理解雇の問題は、残念ながら2015年2月に解雇有効と判断され確定しているが、2010年の整理解雇過程で組合のスト権確立に不当な介入が行われた事件は裁判で日航側の不当労働行為が確定している。さらに、ILO(国際労働機関)は4度も「会社と組合との意義ある対話を維持することの重要性を強調する」と勧告している。

日航はこれらの判決やILOの勧告を受け入れ、組合と誠実に協議し解雇問題の早期解決をすべきと思う。しかし、日航側は利潤を求める株主の声は聞くが、組合との交渉では「解決したい」と言うだけでまともに答えていないと感じる。政府は「労使が

2020.6.19 株主総会会場前でのスタンディングアピール



いつもならその後すぐ質疑応答に入るのだが、今年は解雇問題についてもビデオが流された。「2010年大晦日の165名の整理解雇は必要であり司法で容認された」と言う経営側に都合のいい事実ばかりを切り貼りした内容。人員削減目標はパイロットも客室乗務員もそれぞれ100名近く超過達成しており解雇は必要なかったこと、不当労働行為の訴訟では経営側が憲法28条違反だと断罪された事には全く触れていない。

ビデオ終了後、議長である赤坂社長は、「この件については質問は控えてほしい」と発言。これまで、毎年、質問が出された解雇問題は今年でピリオドを打ちたいと言う経営側の一方的な意図が見えた。昨年の株主総会もそうだった

が、女性への指名が極端に少ない。黙って挙手するばかりではこれまでと同じように何事もなく終わってしまう。不当解雇された私達が直接社長に訴えるのはこの場しかないのだ。「女性にもっと発言させてほしい。公明正大に運営して下さい」と節目ごとに大きい声で訴えた。6人目にやっと女性が指名された。今年初めて参加した仲間だった。会社の弱点を突き、切々と訴える様は会場を圧倒した。手を挙げ声を出し続けた私はとうとうと、最後から2番目によく指名された。10年間、仲間や支援者と共に乗り越えてきた艱難辛苦を訴えたかったが3分間と言う制約の中で自分の思いは飲み込み、「現場の仲間の不安な思い、今こそ解決することが会社の発展につながる」と、社長の英断を求めた。図らずも起きた拍手に後押しされた。

一般株主からは、「無配にも関わらず、高額な役員手当はおかしい。解雇された人たちを戻すのが先」など抗議の質問が相次いだ。高座にいる社長は強制終了させようとしていた。不当解雇された私は10年間の悔しい想いに突き動かされ社長の高座の足元へ駆け寄っていた。他の仲間も同様だった。10年間の屈辱を口々に訴えた。赤坂社長、そして社長の隣に座っていたかつて同じフライトをしたこともある元パイロットの植木会長に私たちの思いは届いたであろうか? 「金銭は払わない」「職場復帰は地上職の再雇用で」このような会社対応では争議は続く。運動は広がり続ける。

解雇争議にピリオドを打つことができないのは、JAL経営の誠実な対応しかなないのである。

日航機御巣鷹山事故^{から}35年

8.12_(水)

松山空港前宣伝

空の安全を守るために
ベテランクルーの即時職場復帰を
AM8:30 ~ 9:30

JAL 闘争支援・全国一律最賃1500円実現

四国キャラバン
学習会

8.20_(木)

コムズ5F大会議室 18時~

- JAL闘争の現状報告
- 最賃闘争の意義